



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中学校における部活動にかかる費用についての一考察
Author(s)	別所, 孝真
Citation	教育福祉研究, 23, 63-91
Issue Date	2019-02-08
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/72517
Type	departmental bulletin paper
File Information	050-0919-6226-23.pdf



中学校における部活動にかかる費用についての一考察

別 所 孝 真

1. はじめに

(1) 本研究の目的

部活動について、子どもたちへのいき過ぎた指導や長時間の練習、そして部活動の指導に伴う教職員の負担について取り上げられることが多くなってきた。しかし、部活動の費用などの「コスト」について言及されることは少ない。部活動において、実際に保護者が何に支出し、いくら負担しているのかが明らかにされていない。また、部活動の費用について子どもと保護者がどう捉えているのかについても調査されていない。そこで、本研究では、三重県の公立中学校において実施したアンケート調査をもとに、部活動の「費用」を明らかにする。また、子どもと保護者両者における「経済的な負担」や「時間的な負担」などのコストについて明らかにし、どう捉えているのかを確認する。

(2) 調査概要

1) 調査対象・時期・方法

2017年9月4日～9月29日に三重県のA市の公立中学校1校の全校生徒（1年生、2年生、3年生）とその保護者を対象に無記名のアンケート方式で実施した。原則、自宅に持ち帰って記入することとした。調査票は下記の「生徒用調査票」と「保護者用調査票」の2種類を、学校を通じて配布した。

①生徒用調査票

生徒に1部ずつ配布した。質問内容は、部活動の選択理由や選択時の保護者との相談の有無、活動状況、部活動についてどう感じているのか、お小遣いの有無、お小遣いから部活動に必要なものに支出しているのか等についてたずねた。（全4

ページ）

②保護者用調査票

保護者に1部ずつ配布した（中学校にきょうだいがいる場合は、子どもの数だけ配布した）。質問内容は、子どもの部活の選択時の相談の有無、保護者の部活動参加状況（送迎や差し入れなど）、部活動に関わる費目と費用、支出の工夫、時間的な負担感と経済的な負担感等についてたずねた。（全6ページ）

回収に際して、「生徒用回収封筒」、「保護者用回収封筒」、「回収用封筒」の3種類を用意した。回収方法は、生徒と保護者は記入後それぞれが「生徒用封筒」、「保護者用封筒」に調査票を入れ封をすることとした。そして、その2つの封筒を「回収用封筒」にまとめて入れ封をし、生徒が随時担任に提出することとした。その後、教員がホームルームなどで集めた「回収用封筒」を職員室の回収箱に入れる方法をとった。締め切り後、学校を通じて筆者が回収した。

2) 調査票の回収状況

本調査では、当該校から回収されていても調査票が無回答の場合は集計対象から外すこととした。その結果、本調査の回収数は、図表1-1の通りとなった。回収率は、全学年でみると生徒は82.4%、保護者は82.7%となった。マッチング率は、全体で99.6%、一年生で98.8%、二年生・三年生で100%であった。また、男子の生徒の回収数は112人（78.3%）で、女子生徒は113人（83.7%）であった。

3) 集計方法

回答は、各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示している。結果数値（%）は小数点第2位を四捨五入して表示しているため、内数の計が

図表 1-1 調査票の回収状況

調査対象		配布数（件）	回収数（件）	回収率（％）	マッチング数（件）	マッチング率（％）
中学 1 年生	生徒	88	85	96.6	85	98.8
	保護者	88	86	97.7		
中学 2 年生	生徒	92	69	75.0	69	100
	保護者	92	69	75.0		
中学 3 年生	生徒	98	73	74.5	73	100
	保護者	98	73	74.5		
不明	生徒	—	2	—	2	100
	保護者	—	2	—		
合計	生徒	278	229	82.4	229	99.6
	保護者	278	230	82.7		

出所：「生徒用調査票」と「保護者用調査票」より作成

（注）本研究において、「マッチング数」とは、「生徒用調査票」と「保護者用調査票」について、同一世帯の情報として集計可能であった数をいい、「マッチング率」とは、保護者の回答数を母数として、マッチング数を割った割合である。

合計に一致しない場合がある。ただし、費用（金額）の部分では小数点以下は切り落としで表記している。また、集計上、未記入など不明分は除いた数を記載している。

複数回答（複数の選択肢から選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。クロス集計の場合、無回答を排除している為、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計の有効回答数が一致しないことがある。

4）本稿の構成

まず、2 章では、学習指導要領における中学校の部活動の位置づけを確認する。そして、文部科学省の「子どもの学習費調査」から教育費の中で「部活動の費用」がどう示されてきたのかを確認し、さらに就学援助制度との関係と現状についても確認する。3 章では、子どもが部活動選択に「お金」が影響してくるのかをみる。そして、4 章から部活動に必要な「コスト」と「コスト」に対する子どもと保護者の捉え方について調査データから確認していく。

2. 部活動と教育費

（1）中学校における部活動の位置づけ

義務教育である中学校において、部活動がどの

ように位置付けられているのかを「学習指導要領」から確認していく。

1）学習指導要領における部活動の扱い

まず、中学校学習指導要領では、「部活動」がどう扱われているのか確認する。1989 年（平成元年）以降の変遷をみていく。学習指導要領における部活動の位置づけは、1989 年の改訂で必修とされていたクラブ活動の時間を授業時間に組み込まなくとも、「部活動」をもって代替できるとされた。その後、1998 年の改訂でクラブ活動が廃止され、「部活動」が課外活動の一環として扱われるようになった。そして、2012 年の改訂で以下のように「部活動」は扱われている。

「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の醸成等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。」

（『中学校学習指導要領』第 1 章 総則
第 4 の 2 （13）より）

部活動は、「生徒の自主的、自発的な参加により行なわれる」されており、これは部活動への参加・加入が個人の自由であるということである。さらに、「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること」とあるように、自主的、自発的な活動ではあるが「スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感のかん養等に資するもの」とされ教育的な側面を持つとされている。また、「地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行う」とあるように、「学校教育」の一部なのかそうではないのかが曖昧な位置づけとなっている。

(2) 教育費の中の部活動費

保護者が子どもの教育にどれほど支出しているのかを、文部科学省の「子どもの学習費調査」を元に確認する。学習費の中でも部活動の費用に注目し「教科外活動費」についてみていく。教育費の支援である就学援助制度と部活動の関係についても確認する。

1) 教育費の保護者負担

憲法第 26 条では、「義務教育は、これを無償とする」とされ、教育基本法では「人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって、教育上差別されない」となっている。ゆえに、教育を受ける権利、保護者の子どもに教育を受けさせる義務、義務教育の無償が定められている。しかし、義務教育無償とは、「公立学校における授業料不徴収、教科書無償交付」との意味で捉えられている。つまり、授業料と教科書費以外は保護者負担となっている。例えば、中学校では制服購入費や修学旅行費、部活動の費用などが必要となっている。このように、義務教育である中学校においても様々な費用がかかっている現状がある。そして、それらを保護者が負担している。保護者が「いくら」負担しているのかを「子どもの学習費調査」から確認する。

本研究では、平成 6 年から平成 26 年度まで（隔年）の「子どもの学習費調査」から、公立中学校の「学習費総額」、「学校教育費」、「教科外活動費」を確認する。まず、文部科学省による定義は図表 2-1 の通りである。本稿で取り上げる「部活動費」は、「教科外活動費」の一部であり、クラブ活動費（課外の部活動を含む）に位値する。

図表 2-1 「子どもの学習費調査」の語句の定義

○学習費総額：学校教育費、学校給食費及び学校外活動費の合計

○学校教育費：学校教育のために各家庭が支出した全経費で、学校が市立に徴収する経費（学校調査）及び必要に応じて各家庭が支出する経費（保護者調査）の合計額。内訳は、「授業料」、「修学旅行・遠足・見学費」、「学級・児童会・生徒会費」、「PTA 会費」、「その他の学校納付金」、「寄附金」、「教科書費・教科書以外の図書費」、「学用品・実験実習材料費」、「通学費」、「制服」、「通学用品費」、「教科外活動費」、「その他」である。

○教科外活動費：クラブ活動（課外の部活動を含む）、学芸会・運動会・芸術鑑賞、各教科以外の学級活動（ホームルーム活動）、児童会・生徒会、臨海・林間学校などのために、家庭が直接支出した経費（飲食、お土産等の個人的に要した経費を除く）

※『子どもの学習費調査』より作成

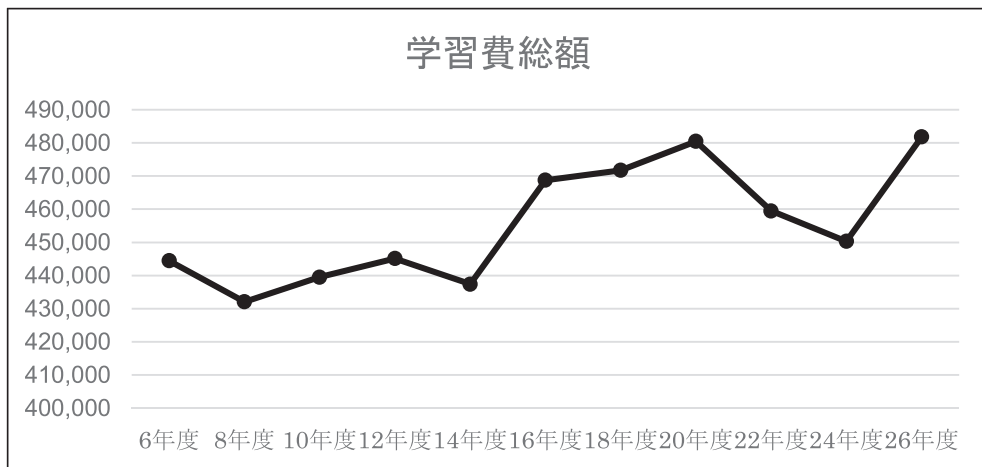
2) 「子どもの学習費調査」からみる部活動費

平成 26 年度の「子どもの学習費調査」から、保護者の教育に関する支出を確認する。本研究では、公立の中学校の支出についてみていく。「学習費総額」（学校教育費＋学校外活動費）は、公立中学校に通う子どもの保護者が年間で支出した教育費の総額である（図表 2－2）。子ども一人当たりの平均は、481,841 円となっている。平成 20 年度以降の推移をみると、平成 20 年度から平成 24 年度までは下降傾向であったが、平成 24 年度から平成 26 年度は上昇している。平成 26 年度の平均は、下降以前の平成 20 年度の平均よりも上回っており、平成 6 年度以降で最も高

くなっている。「学校教育費」は、義務教育（中学校）を受けるため保護者が年間で支出した経費である（図表 2－3）。子ども一人当たりの平均は、167,386 円となっている。平成 20 年度以降の推移は、下降傾向が続いている。「教科外活動費」は、学校において、教科とは別に必要に応じて各家庭が年間で直接支出する経費である（図表 2－4）。子ども一人当たりの平均は、32,468 円となっている。平成 6 年度以降の推移をみると、「教科外活動費」は緩やかではあるが年々上昇傾向にある。文部科学省の「子どもの学習費調査」では、「教科外活動費」の中に分類されている「クラブ活動（課外の部活動を含む）、学芸会・運動会・芸術鑑賞、

図表 2－2 学習費総額の推移〈公立中学校〉

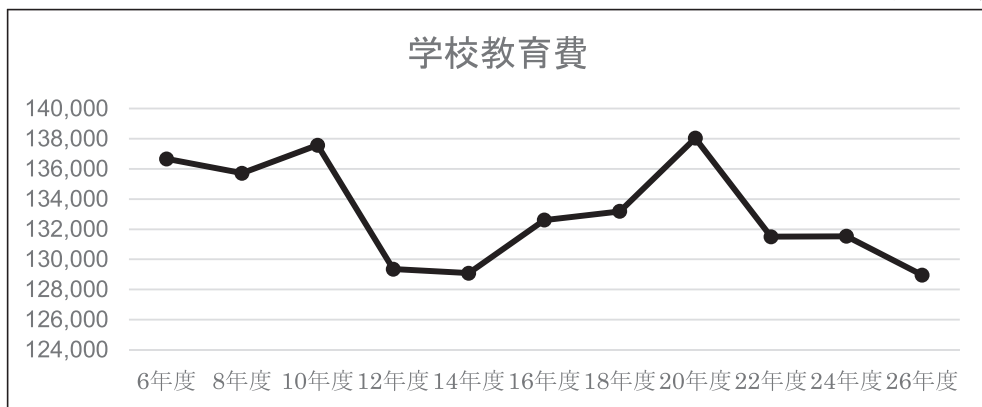
（単位：円）



出典：『子どもの学習費調査』（文部科学省）より作成

図表 2－3 学校教育費の推移〈公立中学校〉

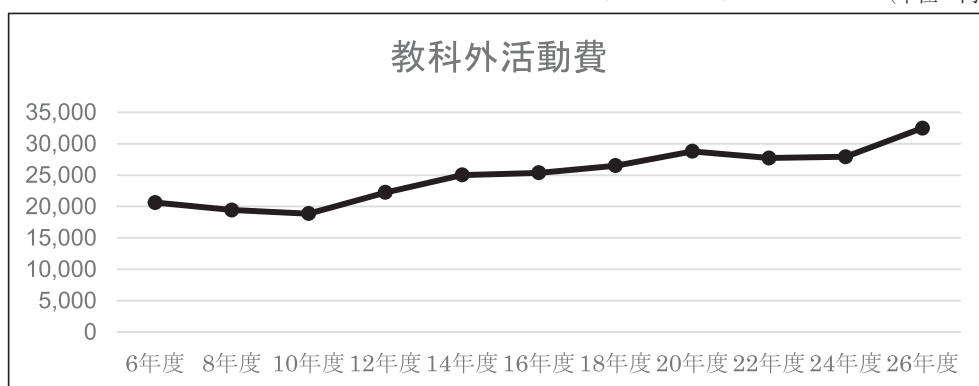
（単位：円）



出典：『子どもの学習費調査』（文部科学省）より作成

図表 2-4 教科外活動費の推移〈公立中学校〉

(単位：円)



出典：『子どもの学習費調査』（文部科学省）より作成

図表 2-5 「学習費総額」・「学校教育費」・「教科外活動費」〈公立中学校〉 (単位：円)

	学習費総額		
		学校教育費	
			教科外活動費
平成 6 年度	444,465	136,668	20,625
平成 8 年度	432,060	135,717	19,435
平成 10 年度	439,522	137,581	18,861
平成 12 年度	445,118	129,353	22,243
平成 14 年度	437,418	129,082	25,011
平成 16 年度	468,773	132,603	25,357
平成 18 年度	471,752	133,183	26,497
平成 20 年度	480,481	138,042	28,778
平成 22 年度	459,511	131,501	27,717
平成 24 年度	450,340	131,534	27,916
平成 26 年度	481,841	128,964	32,468

出典：『子どもの学習費調査』（文部科学省）より作成

各教科以外の学級活動（ホームルーム活動）、児童会・生徒会、臨海・林間学校などのために、家庭が直接支出した経費（飲食、お土産等の個人的に要した経費を除く）」がそれぞれ「いくら」かかっているのかはわからない。つまり、部活動の費用が単独で「いくら」かかっているのか明らかにされていない。

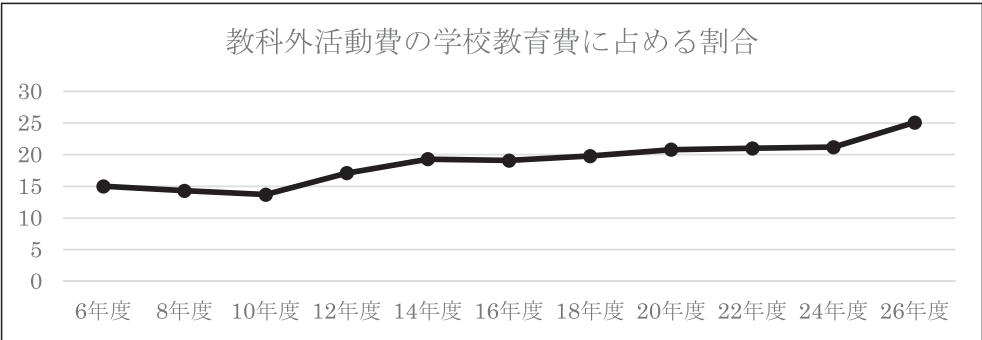
3) 教科外活動費の学校教育費に占める割合について

ここでは、教科外活動費の学校教育費に占める割合についてみていく。学校教育費は、平成 20 年度以降下降傾向があり、教科外活動費は年々上

昇傾向がある（図表 2-5）。そのことによって教科外活動費の学校教育費に占める割合が高くなってきている。平成 16 年度以降から 19.1%、19.8%、20.8%、21.0%、21.2%、25.1%と平成 26 年度まで上昇してきている。平成 26 年度では、「学校教育費」のなかで 25.1%が「教科外活動費」となっている（図表 2-6、図表 2-7）。

「教科外活動費」の大半は「クラブ活動費（課外の部活動を含む）」が占めているのではないかと推測される。そのことを踏まえると、教科外活動費の学校教育費に占める割合の上昇は、よりクラブ活動費（部活動費）が学校教育費用の中で大き

図表 2-6 教科外活動費の学校教育費に占める割合の推移〈公立中学校〉（単位：％）



出典：『子どもの学習費調査』（文部科学省）より作成

図表 2-7 教科外活動費の学校教育費に占める割合〈公立中学校〉（単位：％）

	6年度	8年度	10年度	12年度	14年度	16年度	18年度	20年度	22年度	24年度	26年度
教科外活動費／学校教育費	15.0	14.3	13.7	17.1	19.3	19.1	19.8	20.8	21.0	21.2	25.1

出典：『子どもの学習費調査』（文部科学省）より作成

な割合を占めてきている可能性があると言える。

4）本調査の部活動費と「子どもの学習費調査」

本研究で、「部活動の費用」として表しているものは、文部科学省が「子どもの学習費調査」で「教科外活動費」の中の「クラブ活動（課外の部活動を含む）」と定義しているものにあてはまるとして分析していく。アンケート調査により、保護者に対して「過去一年間で部活動にかかった費用の総額はどれぐらいですか」と記述式で尋ねることで「部活動の費用」を明らかにしようとした。ここでは部活動全体での平均を示すこととする。また、部活動の年間費支出は、一年生と二年生・三年生とで期間が異なるため分けて示す。一年生は入学から9月まで（2017年4月～2017年9月）の費用総額であり、二年生・三年生は過去一年間（2016年9月～2017年9月）の費用総額である。

調査結果は図表2-8の通りである。一年生の部活動の費用の平均は、33,660円であった。二年生・三年生の部活動の費用の平均は、30,960円（38,010円）であった。二年生・三年生の平均の（）内は、250,000円と390,000円の高額支出者を含んだ平均である（以下同様）。二年生・三年生の年間費用を運動部と文化部で分けると、運動部32,255円（35,824円）、文化部19,339円（32,120円）であった。

ここで注目したいのは、「教科外活動費」の中でのクラブ活動費の比重である。本調査で明らかになった「部活動の費用」から、「教科外活動費」の大半は「クラブ活動費（課外の部活動を含む）」が占めている可能性があることがわかった。また、部活動の費用が「子どもの学習費調査」の「教科外活動費」の平均を大きく上回る世帯もあった。

図表 2-8 部活動の年間費用の平均（単位：円）

	一年生	二年生・三年生	二年生・三年生の運動部	二年生・三年の文化部
平均金額	33,660	30,960 (38,010)	32,255 (35,824)	19,339 (32,120)

出所：「保護者調査結果」より作成

（注） 一年生は入学から9月まで、二年生・三年生は過去一年間の費用
二年生・三年生の（）内は、250,000円と390,000円の支出者を含んだ平均

5) 部活動費と就学援助

学校教育法第19条において、「経済的理由によって、就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対しては、市町村は、必要な援助を与えなければならない。」と規定されている。就学援助の対象者は、「要保護者」と「準要保護者」がある。

「要保護者」とは、生活保護法第6条第2項に規定する要保護者を指している。平成25年度では、この要件を満たす者が約15万人いるとされている。国は、義務教育の円滑な実施のために市町村が行う援助のうち要保護者への援助に対して、「就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励についての国の援助に関する法律」、「学校給食法」、「学校保健安全法」などに基づいて必要な援助を行うとされている。その補助対象品目は、「学用品費」、「体育実技用具費」、「新入学児童生徒学用品費等」、「通学用品費」、「通学費」、「修学旅行費」、「校外活動費」、「医療費」、「学校給食費」、「クラブ活動費」、「生徒会費」、「PTA会費」である。本研究のテーマである部活動の費用（クラブ活動費）に着目すると、下記の図表2-9の通りである。クラブ活動の対象費目は「クラブ活動（課外の部活動を含む）の実施に必要な用具等で、当該活動を行う児童又は生徒全員が個々に用意することとされているものについて、当該用具又はその購入費及び当該活動を行う児童又は生徒全員が一律に負担すべきこととなる経費」となっている。年額の援助額29,600円となっている。本調査では、どれがこの対象費目に該当している費用なのかは特定できていない。ただ、本調査で明らかになった年間費用（高額支出者を除いた平均）をおおよそは賄えている。細かく見れば、二年生・三年生の全部活動

の平均（高額支出者を除いた平均）から1,360円不足している。二年生・三年生の運動部（高額支出者を除いた平均）でみると、2,655円不足している。

「準要保護者」とは、市町村教育委員会が生活保護法第6条第2項に規定する要保護者に準ずる程度に困窮していると認める者（認定基準は各市町村が規定）を指している。生活保護の基準の1.3倍程度を就学援助基準としている市町村が多いとされている。平成25年度では、この要件を満たす者が約137万人いるとされている。準要保護者に対する支援については、三位一体改革により、平成17年度より国の補助を廃止し、財源移譲・地方財政措置を行い、各市町村が単独で実施することとなっている。つまり、各自治体によって認定基準も給付額も品目も違うということである。本研究のテーマである部活動の費用（クラブ活動費）に着目すると、準要保護の就学援助費目の「クラブ活動」の援助状況は図表2-10の通りである。平成26年度は17.9%、平成27年度は19.2%となっている。平成26年度から平成27年度にかけて、準要保護の就学援助費目に「クラブ活動」が含まれてきてはいるが、まだ割合は低い状況である。

3. 子どもと部活動

中学校での学校生活において、子どもたちの関心事項の一つが部活動であろう。特に、中学校に入学する際の最大の関心事項のひとつは、部活動選択ではないだろうか。「どの部活に入ろうか」、「練習についていけるだろうか」、「先輩は優しいだろうか」と心を弾ませながら、同級生たちと楽

図表2-9 要保護児童生徒援助費補助金単価（年額）

（単位：円）

区分	対象品目	中学校
クラブ活動費	クラブ活動（課外の部活動を含む。以下同じ。）の実施に必要な用具等で、当該活動を行う児童又は生徒全員が個々に用意することとされているものについて、当該用具又はその購入費及び当該活動を行う児童又は生徒全員が一律に負担すべきこととなる経費	29,600

出典：文部科学省「平成26年度就学援助実施状況等調査」より
※平成29年度予算単価

図表 2-10 準要保護の就学援助費目に「クラブ活動費」が含まれる市町村数（単位：市町村）

	平成 26 年度	平成 27 年度
クラブ活動費	315 (17.9%)	338 (19.2%)

出典：文部科学省「平成 26 年度就学援助実施状況等調査」より作成

※回答市町村数（平成 26 年度：1760、平成 27 年度 1762）

しく会話をするだろう。部活動を学校生活での楽しみにしている子もいる。さらに、部活動で多くの時間を共有し、苦楽を共にした仲間との友情は、卒業してからも色あせることはない。そして、部活動での思い出を大切にしている人も少なくない。学校生活において、部活動は話題になりやすいのではないだろうか。同級生が部活動の話で盛り上がっているなかで、その会話に入れない子がいるのではないだろうか。例えば、家庭の経済的な理由で、部活動への加入を諦めている子がいるのではないか。また、加入できていたとして、部活動の費用負担を考えると「お金」がかかる部活動を選べない、つまり自分の「やりたい」で部活動を選べない子がいるのではないか。その現状を把握する。

（1）部活動選択と費用

生徒に部活動の選択時にどう考えて部活動を選択したのかを聞き、子どもたちの部活動選択に「費用」が影響しているのかを確認していく。

1）部活動選択理由

子どもたちが、部活動をどのように選んでいるのかを明らかにする。そして、部活動の選択理由に「お金」が影響している生徒がどれほどいるかを示していく。はじめに、部活動に入部した生徒（214 名）の選択理由から確認する。生徒の部活動決定経緯について、どのようにして選んだかを尋ねた。本調査の回答構成は、図表 3-1 の通りである。「その他」の内容は、「他に入りたい部がなかったから」が最も多く、次は「きょうだいがやっていた影響」が多かった。周りの人がやっていたために自分もやろうとする生徒もいた。

選択理由の中で「お金」に注目してみていく。「お金があまり必要ではなさそうだったから」と

答えた生徒は、美術部 4 人、サッカー部 2 人、柔道部 1 人の計 7 人(3.3%)であった。美術部では、部員 17 人中 4 人が「お金があまり必要ではなさそうだったから」と回答している。部活動選択の際に、「お金」について意識している生徒は、費用が多くかかりそうなところは選ばない傾向があるのかもしれない。本調査では、子どもが“仕方なく”「お金がかからない部活動」を選んでいるのかはわからない。ただ、「お金」について意識し部活動を選択している子がいることが明らかになった。部活動にかかる「お金」が子どもたちの部活動選択に影響している可能性がある。

2）部活動に加入しなかった理由

次に、中学校の部活動に加入しなかった生徒（14 名）の回答をみていく。本調査の回答構成は、図表 3-2 の通りである。アンケート実施の際に、3 年生は引退していても部活動に所属しているとして、回答をお願いした。しかし、未所属 14 名のうち 3 名は、部活動を引退しているため部活動に所属していないと答えている。よって、入学以来未所属なのは 11 名である。また、本調査では、部活動人加入していない生徒に対して子どもが部活動に入りたかったのかについては尋ねていない。「その他」はすべて「引退しているから」である。

部活動に加入しなかった理由は、大きく 3 つに分けられる。1 つ目は、「中学校の部活動以外にやりたいことがある」という理由である。中学校の部活動以外にやりたいことがあり、習い事やクラブ活動に参加している子が 4 人と最多であった。また、勉強をしたいからと答えた生徒は 3 人だった。中学校の部活動以外の「場」においてやりたいことをやっている生徒や、勉学に励んでいる生徒がいることがわかった。2 つ目は、「部活動に対しての不安があること、または興味が無いこと」である。加入後の練習に不安があり、ついていけないと思った子がいる。また、部活動に対して興味がなく、「家に早く帰りたい」、「入りたくない」と答えた生徒が計 4 人いる。部活動に対して、不安を抱えている生徒や興味が無い生徒がいることわかった。3 つ目は、「自分以外の要因で

図表3-1 部活動の選択理由（複数回答）〈子ども〉

（単位：人）

選択理由	はい（％）	いいえ（％）	無回答（％）	合計
中学校に入学する前からやっていたから	75 (35.2%)	129 (60.6%)	9 (4.2%)	213
説明会や体験入部で楽しそうだったから・やりたかったから	97 (45.5%)	107 (50.2%)	9 (4.2%)	213
うまくなりたかったから	80 (37.6%)	124 (58.2%)	9 (4.2%)	213
体を鍛えたかったから	42 (19.7%)	162 (76.1%)	9 (4.2%)	213
充実した学校生活が過ごせると思ったから（楽しみたかったから）	61 (28.6%)	143 (67.1%)	9 (4.2%)	213
友達を作りたかったから	36 (16.9%)	168 (78.9%)	9 (4.2%)	213
先輩・友達に誘われたから	46 (21.6%)	158 (74.2%)	9 (4.2%)	213
家族に勧められたから	27 (12.7%)	177 (83.1%)	9 (4.2%)	213
内申書に書いてもらうため	7 (3.3%)	197 (92.5%)	9 (4.2%)	213
お金があまり必要ではなさそうだから	7 (3.3%)	197 (92.5%)	9 (4.2%)	213
全員加入だから	4 (1.9%)	200 (93.9%)	9 (4.2%)	213
その他	17 (8.0%)	187 (87.8%)	9 (4.2%)	213

出所：「生徒調査結果」より作成

図表3-2 部活動に入らなかった理由（複数回答）〈子ども〉

（単位：人）

部活に入らなかった理由	はい（％）	いいえ（％）	合計
習い事（塾を除く）や部活動以外のクラブ活動をしているから	4 (28.6%)	10 (71.4%)	14
入りたいと思わなかったから	1 (7.1%)	13 (92.9%)	14
練習が大変そうだったから（大変だったから）・ついていけないか心配だった	3 (21.4%)	11 (78.6%)	14
家に早く帰りたいから	3 (21.4%)	11 (78.6%)	14
家で家事・洗濯・料理をしなくてはいけないから	3 (21.4%)	11 (78.6%)	14
勉強をしたいから（宿題があるから・塾に行かなくてはいけないから）	3 (21.4%)	11 (78.6%)	14
お金がかかるから	0 (0.0%)	14 (100.0%)	14
家族の人の協力や参加が必要だったから	0 (0.0%)	14 (100.0%)	14
その他	3 (21.4%)	11 (78.6%)	14

出所：「生徒調査結果」より作成

図表 3-3 部活動選択時に保護者と「お金」について相談したか〈子ども〉 (単位:人)

相談の有無	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)	合計
全学年	51 (23.2%)	154 (72.3%)	8 (3.5%)	213

出所:「生徒調査結果」より作成

加入できない」ということである。本調査では、「お金がかかるから」、「家の人の協力や参加が必要でなかったから」と回答した生徒はいなかった。しかし、「家で家事・洗濯・料理をしなくてはいけないから」と答えた生徒が3人いた。「お金」や「保護者の協力」が必要なために部活動に入ることを諦めた生徒は、本調査ではいなかった。しかし、放課後の時間を部活動に回すことが出来ず、家のことを手伝わなければならない子がいた。家で家事・洗濯・料理をしなくてはいけないので、放課後の「自由な時間」が取れない子がいることがわかった。加入しなかった理由も複数回答で行ったが、加入者の選択理由と比べ、単独回答（どれか一つだけにチェックを入れている）が多い印象を受けた。加入しないときの理由は、様々な理由があるのではなく、生徒の中で明白なのかもしれない。

3) 保護者との相談の有無

部活動選択の直接的な理由とははななくとも、保護者と「お金」について話すことは子どものなかに「お金」が気になるという気持ちを生むのではない。そこで、子どもが部活動を選択するときに、保護者と部活動に必要な「お金」について相談したどうかについて尋ねた。「部活動を選ぶときに保護者と部活動にかかるお金について相談しましたか」との問いに対しては、「はい」23.2%、「いいえ」72.3%であった(図表3-3)。子どもが部活動を選ぶときに、保護者に相談するという形で、費用を意識していることがみられる。ただ、23.2%が費用について意識しているが、子どもたちの部活動選択に費用がどれほど影響したかを明確に論じることができなかった。前述の部活動の選択理由では、「お金があまり必要ではなさそうだったから」と答えた生徒は7人(3.3%)であったが、選択理由とまではいかなくとも、「お金」について

気にしている子どもは51人(23.2%)いることがわかる。

4. 部活動の費用について

部活動に加入すると何が必要となるのだろうか。そこで、実際に保護者が何に支出し、いくら負担しているのかを確認する。

(1) 部活動にかかる費目

部活動に参加するために何が必要であったかを見ていく。部活動に必要なものとして、「部費」や「道具など」の部活動に必要な費目としてイメージされやすいものから、「弁当代」や「日焼け止めや制汗剤など」のように、部活動の費用として捉えるのかが分かれるようなものまでを部活動に必要な費目として捉え、保護者がどのようなものを部活動の費用として支出しているのかを確認する。

1) 部活動別の部活動にかかる費目

まず、部活動には何が必要なのかを見ていく。筆者が24個の費目を設けて「入部以降に部活動において支出したものすべてにチェックをいってください」と尋ねることで把握しようとした。「その他」については、筆者が想定できなかった費目を把握するために「どんな些細な費用でも部活動にかかったものをお書きください」とした。本調査では、保護者が「部活動の支出である」と考えたものをあげてもらっている。

図表4-1、図表4-2では、各費目に対して支出しているかどうかを「○」、「△」、「×」で表している。「○」は、「ほとんどの保護者が支出していること」、「△」は、「3~4割程度の保護者が支出していること」、「×」は、「ほとんどの保護者が支出していないこと」を表している。なお、「○」と「△」の間にあたる、4~9割の保護者が支出している費目は存在しなかった。調査結果は、図

図表 4-1 学校で集金されるもの〈保護者〉

	部費	後援会費・父母会費など	選手登録料	大会参加費	保険料	ユニフォーム・衣装	部で統一された物や服	体育館やグラウンド、ホールの使用料	合宿・遠征費
野球部	○	×	×	×	×	○	○	×	△
ソフトボール部	○	×	△	×	△	○	○	×	△
サッカー部	○	×	○	×	△	○	○	×	○
柔道部	○	×	○	○	△	○	○	×	×
剣道部	×	×	△	○	○	○	○	○	○
バスケットボール部	○	×	△	×	×	○	○	×	○
男子バレー部	○	×	×	×	×	○	○	×	×
女子バレー部	○	×	×	×	×	△	○	×	×
卓球部	○	×	○	○	×	○	×	×	×
吹奏楽部	○	×	×	×	×	△	△	×	×
美術部	△	×	×	×	×	×	×	×	×

出所：「保護者調査結果」より作成

※○：ほとんどの保護者が支出しているもの

△：3～4 割程度の保護者が支出しているもの

×：ほとんどの保護者が支出していないもの

図表 4-2 個人で購入するもの〈保護者〉

	道具	道具の保全・修理代	消耗品の道具	昇段試験などの検定料	交通費
野球部	○	○	○	×	○
ソフトボール部	○	△	○	×	○
サッカー部	○	△	○	×	○
柔道部	×	×	×	○	△
剣道部	○	○	○	○	○
バスケットボール部	△	×	△	×	○
男子バレー部	×	×	△	×	×
女子バレー部	×	×	△	×	△
卓球部	○	○	○	×	△
吹奏楽部	△	○	△	×	×
美術部	○	○	○	×	×

出所：「保護者調査結果」より作成

※○：ほとんどの保護者が支出しているもの

△：3～4 割程度の保護者が支出しているもの

×：保護者が支出していないもの

表 4-1、図表 4-2、図表 4-3 の通りである。部活動によって必要なものが異なっている。

図表 4-1 「学校で集金されるもの」は、個人で「金額」や「時期」を調節できないものである。つまり、学校に支払う「金額」も決まった額であるため、自分で安いものを探すなどの工夫が出来ない。さらに、「いつまでに」と学校側が期限を設

けることが多く、「時期」も自分で調整することができない。このように、「学校で集金されるもの」は、部活動の支出において自分でコントロールできない支出である。「学校で集金されるもの」について、保護者は何を支出しているのかを部活動別で確認する。

この「学校で集金されるもの」として分類した

費目は、全部員に請求されているものが大半であるが「△」がみられる。これは「後援会費・父母会費など」、「選手登録料」では、「部費」にそれらが含まれると判断した人と含まれないと判断した人に分かれてしまったためであると考えられる。「ユニフォーム・衣装」では、女子バレー部は「ユニフォーム」が上下で個人所有かどうかが違うため認識が分かれてしまったようである。吹奏楽部では、パート（担当楽器）により揃えるものが違うためである。「合宿・遠征費」については、宿泊を伴うもののみを「合宿・遠征費」として捉えた人がいたためである。

図表4-2「個人で購入するもの」は、個人で「金額」や「時期」を調節できるものである。つまり、個人で購入するものであるのもので、どの程度の「金額」のものを買うのかを自分で調整することが出来る。さらに、「時期」をある程度調整することが出来るため、自分に支払い能力のあるときにずらすことができる。つまり、自分の経済状況に合わせることが可能である。このように、「個人で購入するもの」は、部活動の支出において自分でコントロールできる支出である。「個人で購入するもの」について、保護者は何を支出しているのかを部活動別で確認する。「個人で購入するもの」は、購入が個人の“自由”とされていても大半の保護者が購入していることがわかった。これらも、半強制的に購入しなくてはならないものとして捉えられる。

次に、支出に関して「個人によって必要かどうかが変わってくるもの」、「部活動の費用の一部として捉えるかどうかに差があるもの」について確認する。その他については「どんな些細な費用でも部活動にかかったものをお書きください」としてあった。ここでは、保護者が部活動の支出であると考えたものをあげてもらっている。これらの費目が部活動の費用といえるかどうかの議論はしない。あくまでも、「保護者が部活動の費用として捉えているか」を優先させている。結果は、図表4-3の通りである。こういったものも、部活動の費用として捉えている保護者もいるというこ

とである。

2) 負担に感じる費目

先ほど確認した24費目のうち、どの費目が保護者にとって負担となっているのかを示していく。本調査では、保護者に「(上記の)24費目の中で負担に感じるもの上位3つは何ですか」と尋ねることで明らかにしようとした。24費目のなかで負担感のある費目上位3つとして回答された費目の合計人数は、図表4-4の通りである。「ユニフォーム・衣装」、「道具」、「部で統一された物や服」の初期費用に関連しているものが上位3つを占めている。それらに次いで、継続的にかかる「部費」が負担となっているようである。

(2) 部活動にかかる費用

部活動に参加するといくらかかるのか。初期費用と継続費（年間費）から確認する。また、初期費用について入学時にかかるため制服や体操服などの入学に必要なものを揃える時期と支出時期が重なる。そこで、部活動の初期費用についてあらかじめ準備していたかを確認し、入部前からどれだけ部活動の費用について考えていたのかを確認する。

1) 初期費用について

入学時に制服や体操服などを準備するように、入部時においてもユニフォームや道具も準備しなくてはならない。では、部活動をするための初期費用は「いくら」かかっているのだろうか。そこで、部活動の入部時にかかる「お金」について、保護者に「入部時の初期費用（道具やユニフォーム・衣装やチームジャージなど）の合計金額はいくらですか」と尋ねることで明らかにしようとした。結果は、図表4-5の通りである。初期費用は、部活動別で確認する。初期費用の平均金額は、野球部49,562円、ソフトボール部35,000円、サッカー部26,750円、柔道部26,111円、剣道部69,583円、バスケットボール部26,142円、男子バレー部28,714円、女子バレー部24,333円、卓球部18,208円、吹奏楽部7,291円、美術部4,000円であった。初期費用は、部活動によって差があることがわかった。運動部と文化部に分けると、

図表 4-3 人によって必要なもの〈保護者〉

(単位:人)

	弁当代	飲料水代	宴会費 (謝恩会 など)	水筒・タ オルなど の備品	サポーター など	医療費・ 体のケア 費(接骨 院など)	日焼け止 めや制汗 剤など	自主 練習費	雑誌・本・ DVDなど (部活動に 関する)	その他
全部活動	141 (65.9%)	136 (63.6%)	19 (8.9%)	99 (46.3%)	55 (25.7%)	56 (26.2%)	63 (29.4%)	15 (7.0%)	21 (9.8%)	23 (10.7%)

出所:「保護者調査結果」より作成

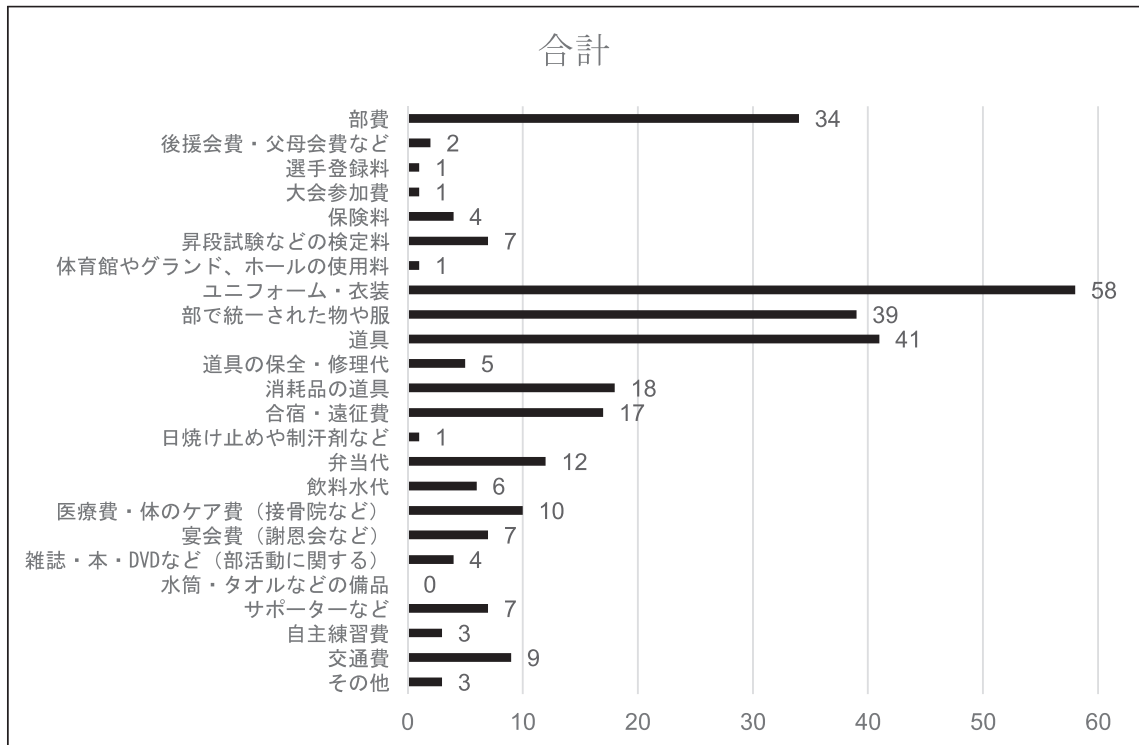
※ () 内の%は、全部活動(214人)に占める割合を示している

〈「その他」の具体的な内容〉

ガソリン代(送迎時)、コンタクト、休憩時のお菓子、栄養補助食品(カロリーメイト・プロテインなど)、顧問・監督への謝恩品、大会記念Tシャツ、旅行のお土産、熱中症対策グッズ、印刷代(ゼッケン)、チューナー代、コンクールを観に行くためのチケット代、練習用楽器、iPad

図表 4-4 一位から三位までの合計人数

(単位:人)



出所:「保護者調査結果」より作成

運動部は初期費用が高く、文化部は初期費用が低い傾向がみられた。

部活動によって初期費用に差がある。また、運動部と文化部で分けてみると、運動部の方が高くなっている。子どもがどの部活動を選ぶかによっ

て、保護者の負担額が異なる。

2) 初期費用の準備について

図表 4-5 からわかるように、部活動においてもはじめに必要なものを揃えると高額になる。そこで、部活動の初期費用のために入学前から資金

図表 4-5 部活動別の初期費用の平均 (単位: 円)

部活動名	初期費用
野球部	49,562
ソフトボール部	35,000
サッカー部	26,750
柔道部	26,111
剣道部	69,583
バスケットボール部	26,142
男子バレー部	28,714
女子バレー部	24,333
卓球部	18,208
吹奏楽部	7,291
美術部	4,000

出所:「保護者調査結果」より作成

を準備していたかについて確認する。まず、制服や体操服などの購入のために資金を準備していたかとの問に対しては、83.6%が「していた」と回答した(図表4-6)。続けて、「その準備金に部活動の初期費用を想定していたか」と尋ねたところ、50.0%が「想定していた」と回答した(図表4-7)。入部者の50.0%の保護者が初期費用を入学前から意識していたことがわかる。

3) 継続費(年間費)について

次に、部活動別の継続費(年間費)について確認する。部活動別の継続費(年間費)の平均は図表4-8の通りである。初期費用と同様に、部活動別で継続費(年間費)を示していく。さらに、一年生と二年生・三年生に分けて示すこととする。

一年生は入学から9月まで(2017年4月～2017年9月)の費用総額であり、二年生・三年生は過去一年間(2016年9月～2017年9月)の費用総額である。

一年生の継続費は、以下の通りである。野球部42,000円、ソフトボール部37,000円、サッカー部45,125円、柔道部25,000円、剣道部90,000円、バスケットボール部50,000円、男子バレー部27,888円、女子バレー部25,000円、卓球部18,333円、吹奏楽部16,818円、美術部6,600円であった。

二年生・三年生の継続費(年間費)は、以下の通りである。野球部45,400円、ソフトボール部21,833円、サッカー部31,666円、柔道部46,000

図表 4-6 中学校入学時の準備金の有無〈保護者〉 (単位: 人)

	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)	合計
全部活動	179 (83.6%)	33 (15.4%)	2 (0.9%)	214

出所:「保護者調査結果」より作成

図表 4-7 入学時の準備金に部活動の初期費用は想定したか〈保護者〉 (単位: 人)

	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)	合計
全部活動	107 (50.0%)	103 (48.1%)	4 (1.9%)	214
運動部	84 (55.6%)	65 (43.0%)	2 (1.3%)	151
文化部	23 (36.5%)	38 (60.3%)	2 (3.1%)	63

出所:「保護者調査結果」より作成

図表 4-8 部活動別の継続費の平均（過去一年間）（単位：円）

部活動名	一年生	二年生・三年生
野球部	42,000	45,400
ソフトボール部	37,000	21,833
サッカー部	45,125	31,666
柔道部	25,000	46,000
剣道部	90,000	51,387 (79,760)
バスケットボール部	50,000	42,833
男子バレー部	27,888	40,240
女子バレー部	25,000	26,714
卓球部	18,333	19,000
吹奏楽部	16,818	22,434 (37,750)
美術部	6,600	7,583

出所：「保護者調査結果」より作成

（注） 一年生は入学から 9 月まで、二年生・三年生は過去一年間の費用

二年生・三年生の（ ）内は、剣道部の 250,000 円と吹奏楽部の 390,000 円をそれぞれ含んだ平均

円、剣道部 51,387 円 (79,760 円)、バスケットボール部 42,833 円、男子バレー部 40,240 円、女子バレー部 26,714 円、卓球部 19,000 円、吹奏楽部 22,434 円 (37,750 円)、美術部 7,583 円であった。（ ）内は、剣道部の 250,000 円と吹奏楽部の 390,000 円をそれぞれ含んだ平均である。

以上の結果から、中学校の部活動にかかる費用として一括りにはできないということがわかる。継続費（年間費）においても、部活動によって費用の差があることが見て取れる。つまり、子どもがどの部活動に入るかによって、部活動の費用が変わってくる。

先に確認した平成 26 年度の「子どもの学習費調査」の「教科外活動費」(32,468 円)と各部活動を比較する。「平成 26 年度の「子どもの学習費調査」の「教科外活動費」(32,468 円)を上回っているのは、野球部 (+12,932 円)、柔道部 (+13,532 円)、剣道部 (+18,919 円)、バスケットボール部 (+10,365 円)、男子バレー部 (+7,772 円) の 5 部である。（ ）内は平成 26 年度の「子どもの学習費調査」の「教科外活動費」(32,468 円)との差額である。文化部は、2 つとも平成 26 年度の「子どもの学習費調査」の「教科外活動費」(32,468 円)を下回っていた。

（３）部活動の支出の特徴

部活動の支出にはどういった特徴があるのかを確認する。部活動の費用は、継続的に一定の金額がかかるというよりは「ある月」にまとまってかかることや、“急に”費用が必要となることがある。そのことについてみていく。

１）支出の偏りについて

部活動の支出の特徴について「支出の偏り」に着目する。図表 4-8 で示した継続費（年間費）は、過去一年間の総額である。継続費用は、過去一年間の総額ではあるが単純に 12 か月で割った値が月々かかっているわけではない。そこで、過去一年間の月の最高金額を示すことで「支出の偏り」の偏りをみていく。月の最高金額の年間費用（継続費）に占める割合を明らかにし、どれほど支出に偏りがあるのかを示す。月の最高金額については、保護者に「過去一年間で部活動にかかる費用が最も多くかかった月はおよそいくらでしたか」と尋ねることで明らかにした。結果は、図表 4-9 の通りである。部活動によって、偏りの大小はあるがどの部活でも偏りがあることが見て取れる。偏りが大きいところでは、80%を超えている。つまり、部活動の支出は各月に一定の金額がかかるというものではなく、「ある月」にまとまってか

図表 4-9 月の最高金額の平均（過去一年間）と年間費用に占める割合（単位：円）

部活動名	一年生	月最高/ 年間費用	二年生・ 三年生	月最高/ 年間費用
野球部	35,000	83.3%	31,000	68.2%
ソフトボール部	22,000	59.4%	14,333	65.6%
サッカー部	25,666	56.8%	15,600	49.2%
柔道部	21,000	84.0%	28,750	62.5%
剣道部	75,000	83.3%	28,333	55.1%
バスケットボール部	15,866	31.7%	12,666	29.5%
男子バレー部	21,714	77.8%	33,000	82.0%
女子バレー部	21,000	84.0%	18,166	68.0%
卓球部	12,000	65.4%	10,653	56.0%
吹奏楽部	6,300	37.4%	4,547	20.2%
美術部	3,000	45.4%	2,500	32.9%

出所：「保護者調査結果」より作成

（注）一年生は入学から9月まで、二年生・三年生は過去一年間

かるという特徴がある。

2) 急な出費について

急な出費は、家計に影響を与える。余裕のある家庭では、貯蓄などで対処できるのかもしれない。しかし、余裕のない家庭にとっては「その月」の生活に大きな影響をもたらす。そして、他の部分で支出を調整しなくてはいけなくなってしまう。急な出費は、他の出費に影響をもたらしてしまう。そのような急な出費は、保護者の「負担感」の要因となり得ると考えた。そこで、部活動の支出において、入部以降に「○日以内に合宿代として××円支払ってください」などの急な出費があったかどうかについて尋ねた。その結果、22.0%の保護者が「あった」と回答した（図表4-10）。自由記述にも「登録料や検定料など説明されていなかったものが急にいたのがあったので困った」との記述があった。「急か」どうかを判断するのは個人の感覚ではあるが、どの部活動でも急な出費があったようである。

部活動の急な出費として、2つの種類があると考えられる。1つ目は、出費の時期も金額も「まったく」予想していなかった出費である。例えば、個人のケガの治療費や道具の修繕費などいつ必要なのか想定できなかった支出である。こちらは、多くの人が「急な出費」として認識しているもの

であろう。2つ目は、出費の時期は「ある程度」予想出来ていたが「金額」がはっきりとしていなかった出費である。例えば、合宿代などがこれにあてはまる。いつ合宿があるかなどは「ある程度」想定できていたとしても、「金額」に関しては集金されるとき（請求されるとき）に伝えられることが多い。そのため、「急な」出費として感じる人もいる。つまり、出費の時期がたとえ予想できていたとしても、いざ「お金」を支払うとなると「急な出費」として感じる人もいる。支払い「金額」が想定できていなかったということが「急な出費」と感じさせる要因となっているのかもしれない。予想を超えた金額の出費も「急な出費」と同じように「負担」となり得る。

「急な出費」についてどう感じているのかの自由記述を確認する。

「急に遠征費、ウィンドブレーカー、道着や袴の予備のことなど必要で、戸惑った。」

このように、保護者も「急な出費」について戸惑いを感じていることが自由記述からも読み取れる。以上のことから部活動の支出において、金額に大小はあったとしても突然やってくる「急な出費」がある可能性がある。

図表 4-10 急な出費の有無〈保護者〉

(単位：人)

急な出費の有無	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)	合計
全部活動	47 (22.0%)	157 (73.4%)	10 (4.7%)	214

出所：「保護者調査結果」より作成

5. 費用に対する認識

(1) 子どもの捉え方

子どもは、部活動にかかる費用についてどう感じているのだろうか。何事においても、「お金」を気にしながら行なうことを息苦しいと感じる人がいる。子どもたちは、部活動を「お金」を意識して参加しているのだろうか。保護者にお金がかかり申し訳なく思っている子もいるのではないかな。「お金」を意識していることが「部活動を楽しめない」要因の一つとなるかもしれない。そこで、子どもの部活動の費用に対する「認識」と「負担感」を確認する。

1) 費用に対する認識について

まず、「お金がたくさん必要だと思うか」と尋ねることで、部活動に必要なお金を「意識」しているのかを明らかにしようとした。結果は、「部活動にお金がたくさん必要だと思う」と判断する人は、「とても思う」「まあ思う」を合わせて 32.9%であった(図表 5-1)。32.9%の子どもが「お金」を意識していることがわかった。

2) 費用に対する負担感について

次に、「欲しい道具が買えない」と思うかを尋ねることで、子どもの精神的な負担を明らかにしようとした(図表 5-1)。「欲しい道具が買えない」は、自分が欲しいと思ったものが買ってもらえないことや、自分以外のみんなが持っているが自分が持っていないので欲しいなど、「欲しい」にも様々な理由がある。どの「欲しい」の理由が子どもの負担感と繋がるのかを議論するのではなく、「欲しいものが買えない」という事実が子どもにどれだけあるのかを確認する。また、この「欲しいものが買えない」は、ものが手に入らないという精神的な負担だけではないと考えられる。「欲しい道具が買えない」というのは、保護者に「買っ

て欲しい」と言えないところにあるのではないかな。中学生ともなれば、ある程度自分の家庭の経済状況も把握しているだろう。「お金」に関して保護者に頼らざるを得ない中学生にとって、「欲しいと言えない」ということは、精神的な負担となっているのではないかと推測される。調査結果は、「欲しい道具が買えない」と感じる人は、「とても思う」「まあ思う」を合わせて 15.0%であった。

最後に、部活動の費用に対する負担感について述べる。子どもは、実際に「お金」を出しているわけではなく、保護者が「お金」を出している。つまり、子どもは経済的な負担を負っていない。そのような状況で、子どもの部活動にかかる「お金」に対する負担感をどうすれば、明らかにできるのか。子どもに対して、直接的に「部活動にかかるお金に対する負担感がありますか」と尋ねるのでは、子どもの「負担感」を捉えることは難しい。そこで、子どもに対して「負担感」を聞くために「お金が必要で保護者に申し訳ないと思うか」と聞くことで明らかにしようとした。この聞き方であれば、精神的な負担を計れると考えた。その結果、「部活動にお金が必要で保護者に申し訳ないと思う」感じる人は、「とても思う」「まあ思う」を合わせて 28.2%であった(図表 5-1)。28.2%が、保護者に申し訳ないという精神的な負担を感じているようである。

(2) 保護者の捉え方

保護者は、子どもの部活動の費用に対して負担感を感じているのだろうか。子どもが「やりたい」部活動をできていたとしても、それが保護者の負担によってなりたっているのではないかな。そこで、保護者の部活動の費用に対する「認識」と「負担感」について確認する。

1) 費用に対する認識について

まずは、「認識」から確認する。「費用がかかり

図表5-1 子どもの費用の捉え方〈子ども〉

(単位：人)

	まったく 思わない (%)	あまり 思わない (%)	どちらとも いえない (%)	まあ思う (%)	とても思う (%)	無回答 (%)	合計
お金がたくさん必要だ と思う	17 (8.0%)	48 (22.5%)	61 (28.6%)	43 (20.2%)	27 (12.7%)	17 (8.0%)	214
欲しい道具が買えない	69 (32.4%)	55 (25.8%)	40 (18.8%)	23 (10.8%)	9 (4.2%)	17 (8.0%)	214
お金が必要で保護者に 申し訳ないと思う	26 (12.2%)	43 (20.2%)	68 (31.9%)	36 (16.9%)	24 (11.3%)	16 (7.5%)	214

出所：「生徒調査結果」より作成

すぎる」と判断する人は、「とても思う」「まあ思う」を合わせて14.0%であった（図表5-2）。14.0%が中学校の部活動において費用がかかりすぎると感じているようである。この「費用がかかりすぎる」という認識は、前章で確認した支出額とは必ずしも対応しない。また、部活動による偏りもみられず、どの部活動にも「費用がかかりすぎる」と感じている人がいることがわかった。

2) 費用に対する負担感について

次に、部活動の費用に対する「負担感」を尋ねたところ、負担を感じると判断する人は、「とても思う」「まあ思う」を合わせて19.6%であった（図表5-3）。この負担感も支出額によるものではなかった。また、子どもが所属する部活動によって偏りがあるわけではなかった。

3) きょうだい数と負担感について

次に、きょうだい数によって負担感がことなるのかを確認する。ただ、本研究では、サンプル数に偏りがあるため、きょうだい数により影響があるのかについては、断言はできない。本調査では、経済的な負担を尋ねたというよりも、支出に対してどのように感じるかを尋ねている。つまり、保護者の「負担感」を尋ねている。きょうだい数が増えれば経済的な負担額は増えると考えられるが、本研究ではあくまで「負担感」の、きょうだい数による違いをみていく（図表5-4）。

部活動の費用に対する「負担感」を感じると判断する人は、「とても思う」「まあ思う」を合わせて、「一人っ子」13.7%、「二人きょうだい」20.9%、「三人きょうだい」20.6%、「四人きょうだい」16.6%、「五人きょうだい」0.0%であった。

図表5-2 保護者の費用の捉え方〈保護者〉

(単位：人)

	まったく 思わない (%)	あまり 思わない (%)	どちらとも いえない (%)	まあ思う (%)	とても思う (%)	無回答 (%)	合計
費用がかかりすぎる	47 (22.0%)	79 (36.9%)	54 (25.2%)	25 (11.7%)	5 (2.3%)	4 (1.9%)	214

出所：「保護者調査結果」より作成

図表5-3 費用に対する負担感〈保護者〉

(単位：人)

負担感	まったく 思わない (%)	あまり 思わない (%)	どちらとも いえない (%)	まあ思う (%)	とても思う (%)	無回答 (%)	合計
全部活動	39 (18.2%)	63 (29.4%)	58 (27.1%)	36 (16.8%)	6 (2.8%)	12 (5.6%)	214

出所：「保護者調査結果」より作成

図表5-4 きょうだい数×負担感のクロス〈保護者〉

(単位：人)

きょうだい数	まったく 思わない	あまり 思わない	どちらとも いえない	まあ 思う	とても 思う	無回答	合計
1人	5 (17.2%)	11 (37.9%)	7 (24.1%)	1 (3.4%)	3 (10.3%)	2 (6.8%)	29
2人	19 (15.9%)	33 (27.7%)	38 (31.9%)	23 (19.3%)	2 (1.6%)	4 (3.3%)	119
3人	10 (18.8%)	16 (30.1%)	12 (22.6%)	10 (18.8%)	1 (1.8%)	4 (3.3%)	53
4人	4 (33.3%)	3 (25.0%)	1 (8.3%)	2 (16.6%)	0 (0.0%)	2 (16.6%)	12
5人	1 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1
合計	39	63	58	36	6	12	214

出所：「保護者調査結果」より作成

※きょうだい数は「生徒本人」を含む

サンプル数の多い「二人きょうだい」と「三人きょうだい」では、全体と同じような構成比になっており、負担感を感じている保護者と感じていない保護者に分かれるようである。「一人っ子」では、負担感を感じていない保護者の割合が他のきょうだい数よりも高くなる反面、「とても思う」と回答する割合が高くなっている。「四人きょうだい」と「五人きょうだい」では、負担感を感じる割合は低く、「負担感」を感じていない割合が高くなっている。

以上のことから、「一人っ子」の世帯では、「負担感」を感じていない世帯が多いが、負担感を感じている世帯の場合、「負担感」が高い傾向があることがわかった。また、きょうだい数が増えるほどに「負担感」を感じない傾向がみられた。

4) きょうだい構成と負担感について

図表5-5は、きょうだい構成と「負担感」のクロス表である。きょうだい構成には、調査対象者の子どもを含んでいる。きょうだい構成により分類すると、サンプル数が少なくなってしまった。ただ、ある程度のサンプル数があれば、どの「きょうだい構成」でも「負担感」は保護者によって全体と同じように分かれるということだけ述べておく。

5) 子どもの「負担感」と保護者の「負担感」について

子どもが思う部活動の費用に対する「負担感」と保護者の「負担感」がどういう組み合わせとなるのかをみていく。子どもの負担感は、「お金が必要で保護者に申し訳ないと思う」の回答を用いる。

子どもと保護者の負担感を合わせてみると、子どもの方が負担感を感じていることがわかる。子どもの「負担感」と保護者の「負担感」は、32.3%の子ども保護者で一致している（図表5-6）。負担感を感じていない（「まったく思わない」+「あまり思わない」）では、子どもと保護者で一致していることが多かった。しかし、負担感を感じている（「まあ思う」+「とても思う」）では、子どもと保護者で一致していないことの方が多いという結果が出た。

6. 支出の工夫と費用の捻出

ここでは、保護者が部活動に必要なものを買うときの支出の工夫と買うための費用の捻出について何を行なっているのかを明らかにする。性質の違う2つの側面からみていく。1つ目は、「支出の工夫」である。「支出の工夫」とは、ものを買うときにより安く買うなどの工夫や、買わずに済むようにおさがりをもらうなどの工夫を指す。つま

図表5-5 きょうだい構成×負担感のクロス

(単位：人)

	まったく 思わ ない	あまり 思わ ない	どちら とも いえ ない	まあ 思う	とても 思う	無回答	合計
中学生1人	5	11	7	1	3	2	29
小学生1人・中学生1人	9	15	18	5	1	2	50
中学生1人・高校生1人	6	10	13	10	1	1	41
中学生1人・大学生以上1人	2	4	3	3	0	1	13
中学生2人	2	4	5	6	0	0	17
小学生2人・中学生1人	2	3	2	5	0	1	13
小学生1人・中学生1人・高校生1人	3	2	4	0	0	0	9
小学生1人・中学生1人・大学生以上1人	0	0	0	1	1	1	3
小学生1人・中学生2人	2	0	0	0	0	0	2
中学生1人・高校生2人	0	1	1	1	0	0	3
中学生1人・大学生以上2人	0	5	1	0	0	0	3
中学生1人・高校生1人・大学生以上1人	2	4	1	0	0	0	2
中学生2人・高校生1人	0	0	0	1	0	1	1
中学生2人・大学生以上1人	1	1	2	0	0	1	2
小学生3人・中学生1人	1	0	0	1	0	0	1
小学生2人・中学生1人・高校生1人	0	1	0	0	0	1	2
小学生1人・中学生1人・大学生以上2人	2	0	0	0	0	0	1
小学生1人・中学生1人・高校生1人・大学生以上1人	0	1	0	1	0	0	1
小学生1人・中学生2人・大学生以上1人	0	0	1	1	0	0	2
小学生2人・中学生2人	0	0	0	0	0	1	1
中学生1人・高校生1人・大学生以上2人	1	0	0	0	0	0	1
中学生1人・大学生以上3人	0	1	0	0	0	0	1
小学生1人・中学生1人・大学生以上3人	1	0	0	0	0	0	1

出所：「保護者調査結果」より作成

※きょうだい構成は、「生徒本人」を含む

図表5-6 子どもの「負担感」×保護者の「負担感」のクロス

(単位：組)

		負担感〈保護者〉						合計
		無回答	まったく 思わ ない	あまり 思わ ない	どちらとも いえ ない	まあ 思う	とても 思う	
お金が必要で保護者に申し訳ないと思う〈子ども〉	無回答	1	1	5	6	3	0	16
	まったく思わ ない	1	4	9	6	4	2	26
	あまり思わ ない	3	5	16	11	8	0	43
	どちらとも いえ ない	4	18	18	19	9	0	68
	まあ思う	2	6	9	10	6	3	36
	とても思う	1	5	5	6	6	1	24
合計		12	39	62	58	36	6	213

出所：「生徒調査結果」と「保護者調査結果」より作成

※「子どもの負担感」は、「お金が必要で保護者に申し訳ないと思う」についての回答である

※網掛けは、子どもの「負担感」と保護者の「負担感」が一致している部分

り、「ものを買うこと」に対する工夫について尋ねた。2つ目は、「費用の捻出」である。「費用の捻出」とは、費用を出すために部活動以外の費用を調整して費用を捻出するものを指す。つまり、資金を作り出す工夫について尋ねた。

(1) 支出の工夫

まずは、「支出の工夫」についてみていく。「特に行なっていない」と回答した人の割合は、62.6%であった(図表6-1)。「支出の工夫」と前章でみた「負担感」の関係について確認しておくと、「支出の工夫」は、部活動の費用に対して「負担感」を感じている人だけが行っているということではなかった。「負担感」を感じていない人でも、「支出の工夫」に関しては行なっていることがわかった。「負担感」を感じているために「支出の工夫」を行うというのではない。つまり、保護者は切羽詰った行動ではなく、「節約」の一つとして行なっているようである。

調査結果は、図表6-1の通りである。「その他」の具体的な内容は、「借りる」であった。部活動に関する「支出の工夫」を行っている中では、「先輩やきょうだいに譲ってもらう(おさがり)」が最も多かった。部活動の支出の工夫では「先輩やきょうだいに譲ってもらう(おさがり)」が主な工夫となっているようである。

図表6-1に示した8つの工夫は、「買うがその値段を安く抑えようとする工夫」と「買わずに対処しようとする工夫」に分けられる。

「買うがその値段を安く抑えようとする工夫」は「バーゲンセール(特売)のときに買う」、「もともと安いものを買う」、「リサイクルショップなどを利用する」の3つである。「買うがその値段を安く抑えようとする工夫」において、回答数が多かった順に並べると「バーゲンセール(特売)のときに買う」、「もともと安いものを買う」、「リサイクルショップなどを利用する」となる。「もともと安いものを買うよりも、バーゲンセール(特売)のときにいいものを買って長く使って欲しい」との記述があった。保護者は、もともと安いもの

を買うよりも、「いいもの」より安く買うことを望んでいるのではないかと推測される。「リサイクルショップなどを利用する」の回答数は少なかった。やはり、子どものものに関しては「中古品」を購入しない傾向があるようである。

「買わずに対処しようとする工夫」は、「先輩やきょうだいに譲ってもらう(おさがり)」、「学校の備品を使う」、「家にあるもので代用する」、「自分で作った」、「その他(借りる)」の5つである。「そもそも買わずにすませようとする工夫」において、回答数が多かった順に並べると「先輩やきょうだいに譲ってもらう(おさがり)」、「学校の備品を使う」、「その他(借りる)」、「家にあるもので代用する」、「自分で作った」となる。「買わない」方の工夫では、おさがりのように「もの」を個人のものとして所有するものと人から借りたり学校の備品を使うなどのように「もの」を個人のものとして所有しない工夫がある。調査結果から、個人のものとして所有する工夫の方が行われる傾向があることがわかった。

(2) 費用の捻出

次に、「費用の捻出」についてみていく。「特に行なっていない」と回答した人の割合は、73.4%である(図表6-2)。支出の工夫よりも「特に行っていない」の割合が10.8%高くなっている。「費用の捻出」と「負担感」の関係について確認すると、「費用の捻出」では、支出の工夫とは異なり項目のいずれかに「はい(行っている)」と回答している保護者は、部活動の費用に対して負担感を感じている傾向があった。「支出の工夫」と「費用の捻出」では、性質が異なることが「負担感」との関係からもわかる。「費用の捻出」となると、節約とは意味合いが異なっており、「負担感」と結びついていることが考えられる。

調査結果は、図表6-2の通りである。部活動に関する「費用の捻出」を行っている中では、「自分(保護者)のやりたいことを控えた」が最も多かった。費用の捻出では、保護者が自分のやりたいことを控えることや生活費を抑えるなどのやりくりによって行われているようである。

図表 6-1 支出の工夫〈保護者〉

(単位：人)

	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)	合計
特に行っていない	134 (62.6%)	69 (32.2%)	11 (5.1%)	214
先輩やきょうだいに譲ってもらう(おさがり)	36 (16.8%)	167 (78.0%)	11 (5.1%)	214
リサイクルショップなどを利用する	2 (0.9%)	201 (93.9%)	11 (5.1%)	214
バーゲンセール(特売)のときに買う	28 (13.1%)	175 (81.8%)	11 (5.1%)	214
学校の備品を使う	10 (4.6%)	193 (90.1%)	11 (5.1%)	214
もともと安いものを買う	17 (7.9%)	186 (86.9%)	11 (5.1%)	214
家にあるもので代用する	4 (1.9%)	199 (93.0%)	11 (5.1%)	214
自分で作った	0 (0.0%)	203 (94.8%)	11 (5.1%)	214
その他	5 (2.3%)	198 (92.5%)	11 (5.1%)	214

出所：「保護者調査結果」より作成

※「その他」の内容は、「借りる」であった。

図表 6-2 に示した 7 つ(「その他」を除く)の捻出方法は、大きく「世帯内で費用を捻出しようとしている方法」と「世帯外の手助けによって費用を捻出しようとする方法」の 2 つ分けられる。さらに、「世帯内で費用を捻出しようとしている方法」は、「子どもに関係する方法」、「保護者自身に関係する方法」、「世帯に関係する方法」に細かく分けることとする。

まず、「世帯内で費用を捻出しようとしている方法」について確認していく。

「子どもに関係する方法」は、「子供の習い事(塾など)を少なくした」である。やはり、子どもの行くことを調整して捻出するということはあまり行われない傾向があった。

「保護者自身に関係する方法」は、「自分(保護者)のやりたいことを控えた」、「働き始めた・仕事を増やした」の 2 つである。保護者自身が犠牲になっていると感じているかどうかは別にして、「自分(保護者自身)が自分のやりたいことを犠牲にしていること」が明らかになった。そのようにして、費用は捻出されている。また、「働き始めた・仕事を増やした」と回答する保護者もある程度いた。何かの支出を減らすということではなく、収入自体を増やして費用を作り出している。

「世帯に関係する方法」は、「生活費(食費や光熱費)を抑えた」、「旅行などを少なくした」の 2 つである。「生活費(食費や光熱費)を抑えた」と

いうのも捻出方法としている保護者は多かった。旅行などの家族行事を減らして、費用を捻出しようとしている保護者がいることがわかった。

次にここからは、「世帯外の手助けによって費用を捻出しようとする方法」について確認していく。「援助による方法」は、「祖父母や親戚に援助してもらう」、「お金を借りた」の 2 つである。「お金を借りた」という保護者はいなかった。しかし、「祖父母や親戚に援助してもらう」は、10 人いた。お金を借りること、つまり借金するまではいかなが親族に援助してもらうことで費用を捻出していることがわかった。「祖父母や親戚に援助してもらう」と回答している保護者の「負担感」は一樣に強かった。他人に援助してもらうということは、例え、祖父母(保護者の両親または義父母)であったとしても、精神的な負担を伴うものである。

何かの費用を削って部活動の費用を作り出すのか、収入や資金を増やすことで部活動の費用を作り出すのかに分かれている。調査結果から、費用の捻出に関しては、今ある資金のなかでいかに費用を作り出すかの方が行われる傾向があることがわかった。

7. 保護者の部活動参加

保護者が子どもの部活動に関わる機会がある。この「関わり」が保護者の負担となっているので

図表 6-2 費用の捻出〈保護者〉

(単位：人)

	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)	合計
特に行っていない	157 (73.4%)	45 (21.0%)	12 (5.6%)	214
生活費(食費や光熱費)を抑えた	19 (8.9%)	183 (85.5%)	12 (5.6%)	214
旅行などを少なくした	8 (3.7%)	194 (90.7%)	12 (5.6%)	214
子供の習い事(塾など)を少なくした	2 (0.9%)	200 (93.5%)	12 (5.6%)	214
自分(保護者)のやりたいことを控えた	27 (12.6%)	175 (81.8%)	12 (5.6%)	214
祖父母や親戚に援助してもらう	10 (4.7%)	192 (89.7%)	12 (5.6%)	214
働き始めた・仕事を増やした	13 (6.1%)	189 (88.3%)	12 (5.6%)	214
お金を借りた	0 (0.0%)	202 (94.4%)	12 (5.6%)	214
その他	0 (0.0%)	202 (94.4%)	12 (5.6%)	214

出所：「保護者調査結果」より作成

はないか。そこで、「当番や送迎」、「差し入れ」に着目し保護者の部活動参加とそれに対する捉え方を把握する。当番や送迎や差し入れの有無を確認し、保護者が部活動にどれだけ時間や金銭を割くことが必要とされているのかを明らかにする。

(1) 差し入れについて

1) 差し入れの有無について

保護者が部活動に直接関わるもの一つとして「差し入れ」がある。ここでは、差し入れについて保護者に尋ねた。まず、差し入れを行っているかについては、「行なっている」と32.2% (69人)が回答した(図表7-1)。運動部と文化部に分けると、その内訳は運動部63人、文化部6人だった。運動部と文化部それぞれの中での「差し入れを行なっている」比率は、運動部41.7%、文化部9.5%であった。運動部の方が文化部よりも差し入れを行なっていることがわかる。部内で保護者全員が差し入れを行っている部はなかった。

2) 差し入れをせざるを得ない雰囲気について

続けて、「部内に差し入れをせざるを得ない雰囲気があるか」について尋ねた。その結果、「差し

入れをせざるを得ない雰囲気がある」と8.9%が回答した(図表7-2)。「雰囲気」については、運動部と文化部での差はほとんどなかった。さらに、「雰囲気」は、「特定の部活だけ」に回答が見られるものでもなかった。「雰囲気がある」と回答した人がいる部では、「ある」と答えた人が“1人だけ”ということはなく、同じ部活動内で複数人が回答していた。また、誰も差し入れを行っていない部では、「雰囲気」に関しても全員が「ない」と回答していた。つまり、誰かが「差し入れ」を始めると「その部内」で差し入れをせざるを得ない雰囲気が生まれることがわかる。

3) 差し入れの金額(年間)について

さらに、過去一年間の差し入れ金額について尋ねた。その結果、部活動全体での平均は、2,762円だった(図表7-3)。最頻値は、2,000円である。図表7-4より、過去一年間で一人当たり「いくら」差し入れに使っているのかをみる。この回答の構成比は過去一年間の差し入れ金額は、200円から12,000円までと幅が広がった。部活動別での差は特になかった。ただ、人数が多い部では

図表 7-1 差し入れの有無〈保護者〉

(単位：人)

	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)	合計
全部活動	69 (32.2%)	140 (65.4%)	5 (2.3%)	214
運動部	63 (41.7%)	87 (57.6%)	1 (0.6%)	151
文化部	6 (9.5%)	53 (84.1%)	4 (6.3%)	63

出所：「保護者調査結果」より作成

図表 7-2 差し入れをせざるを得ない雰囲気の有無〈保護者〉 (単位：人)

	はい (%)	いいえ (%)	無回答 (%)	合計
全部活動	19 (8.9%)	189 (88.3%)	6 (2.8%)	214
運動部	15 (9.9%)	133 (88.0%)	3 (1.9%)	151
文化部	4 (6.3%)	56 (88.8%)	3 (4.7%)	63

出所：「保護者調査結果」より作成

金額が高くなる傾向がある。本調査では、何を差し入れているのか、また何回差し入れを行ったのかについては、聞いていない。そのため、複数回差し入れを行っているのではないかと推測される金額もあるが、断定はできない。

4) 保護者の差し入れに対する捉え方について

ここでは、差し入れに関しての4つ記述から保護者が差し入れをどう捉えているのかをみていく。

「差し入れに関しては、あまり深く考えていない。子供たちの頑張る姿に少しでもとの思いですので負担に感じるものではありません。」

「差し入れも大会のみの保護者からの少しのプレゼントです。」

上記の2つの記述のように、こちらは「差し入れをせざるを得ない雰囲気」に影響されてではなく、自ら進んで「差し入れ」を行っているようである。「差し入れ」については、頑張る子どもたちに対する応援の気持ちで行っている人がいることがわかった。そして、差し入れを行なっている人は、差し入れという行為自体には「あまり深く考えていない」という人が多いようである。

「子供から〇〇さんの親から差し入れをもらったとか……聞いているので差し入れした方がいいのかな?と思うようになります。」

「(差し入れを) もらってばかりだと気が引ける。」

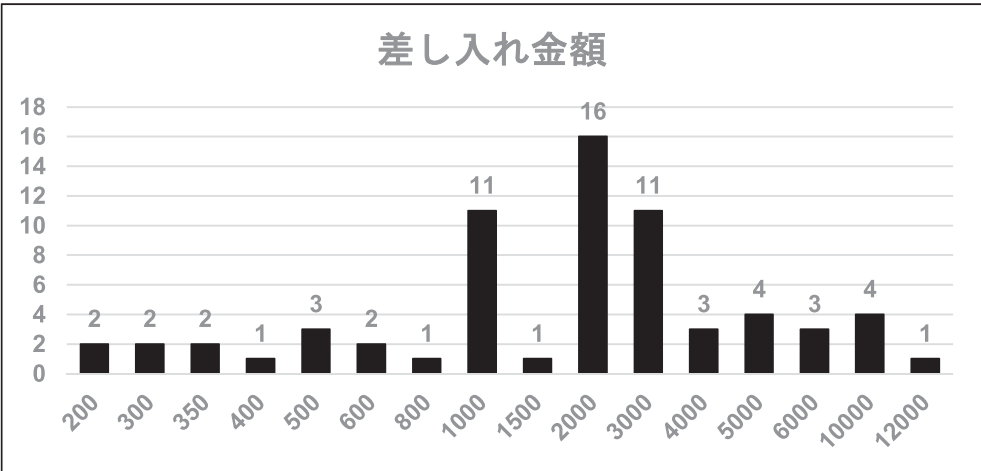
図表 7-3 過去一年間の差し入れ金額の平均〈保護者〉 (単位：円)

	金額
全部活動の平均	2,762 円

出所：「保護者調査結果」より作成

このように、周りが差し入れをすると「自分も

図表 7-4 差し入れ金額 (年間)〈保護者〉 (単位：円)



出所：「保護者調査結果」より作成

図表 7-5 ひと月あたりの当番や送迎の回数〈保護者〉

(単位:人)

	なし (%)	1~2 回 (%)	3~4 回 (%)	5~6 回 (%)	無回答 (%)	合計
全部活動	65 (30.4%)	126 (58.9%)	16 (7.5%)	4 (1.9%)	3 (1.4%)	214
運動部	19 (12.5%)	111 (73.5%)	15 (9.9%)	4 (2.6%)	2 (1.3%)	151
文化部	46 (73.0%)	15 (23.8%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)	63

出所:「保護者調査結果」より作成

しなくてはいけない」と感じる保護者がいるようではある。部内で一人でも「差し入れ」を行うと、その人にあわせなくてはいけないという同調圧力と、「もらいっぱなしでは申し訳ない」という気持ちがあるようである。さらに、差し入れなどに熱心な保護者に合わせなくてはいけないのが重荷になっているという記述も自由記述欄にみられた。ただし、あくまでも差し入れについては個人の自由という認識が強く、送迎とは違い頼まれることもないので、するかしないかは個人の判断に委ねられている。

(2) 当番や送迎について

1) 月あたりの回数について

保護者が部活動に直接関わるもの一つとして「当番や送迎」がある。当番や送迎から、保護者の「時間的な負担」についてみていく。まず、保護者がどれくらい当番や送迎があるのかを示していく(図表 7-5)。部活動全体でみると、ひと月あたりの当番や送迎の回数は、「なし」30.4%、「1~2 回」58.9%、「3~4 回」7.5%、「5~6 回」1.9%、「無回答」1.4%であった。当番や送迎が少なくとも一回以上ある割合は、68.3%であった。次に、運動部と文化部に分けてみる。運動部では、「なし」12.5%、「1~2 回」73.5%、「3~4 回」9.9%、「5~6 回」2.6%、「無回答」1.3%であった。当番や送迎がある割合は、86.0%であった。文化部では、「なし」73.0%、「1~2 回」23.8%、「3~4 回」1.5%、「無回答」1.5%であった。当番や送迎がある割合は、26.8%であった。ひと月あたりの回数では、「1~2 回」が最も多かった。運動部の方が文化部よりも、当番や送迎があることがわ

かった。

2) 一回あたりの時間について

当番や送迎の一回当たりの時間については、図表 7-6 の通りである。全部活動では、「3 時間未満」が 79.8%であった。当番や送迎の時間が「3 時間以上」であるのは運動部だけである。当番や送迎などにかかる時間が長くなっているのは、練習試合などに連れ添い、そのまま観戦していることが考えられる。文化部では、88.2%が「一時間以内」であった。

3) 当番や送迎に対する負担感について

次に、保護者の当番や送迎の「負担感」についてみていく。部活動全体では、当番や送迎などに負担を感じると判断する人は、「とても思う」「まあ思う」を合わせて 26.1%となる(図表 7-7)。運動部と文化部に分けてみると、「とても思う」「まあ思う」を合わせてそれぞれ、運動部 27.9%、文化部 11.6%である。運動部の方が「負担感」が強い傾向がある。部による差はみられなかった。これに関連する 5 つの自由記述を見ていく。

「お金の負担というより送迎の負担が大きい。夫婦そろって土日休みとは限らない。」

「剣道は、試合がある前日に親が学校まで防具を取りに行き、当日使用後、また使用する日の朝(または前日の夜など)に学校まで持っていけないので、とても負担(お金はガソリン代だけですが……)。」

「試合は、子どもたちが自転車で行ける範囲だと

図表 7-6 一回当たりの拘束時間〈保護者〉

(単位：人)

	1 時間未満 (%)	1 時間以上 3 時間未満 (%)	3 時間以上 5 時間未満 (%)	5 時間以上 8 時間未満 (%)	8 時間以上 (%)	無回答 (%)	合計
全部活動	72 (48.3%)	47 (31.5%)	8 (5.3%)	14 (9.3%)	1 (0.6%)	7 (4.6%)	149
運動部	57 (43.1%)	46 (34.8%)	8 (6.0%)	14 (10.6%)	1 (0.7%)	6 (4.5%)	132
文化部	15 (88.2%)	1 (5.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.8%)	17

出所：「保護者調査結果」より作成

図表 7-7 当番や送迎の負担感〈保護者〉

(単位：人)

	まったく 思わない (%)	あまり 思わない (%)	どちらとも いえない (%)	まあ 思う (%)	とても 思う (%)	無回答 (%)	合計
全部活動	21 (14.0%)	54 (36.2%)	30 (20.1%)	26 (17.4%)	13 (8.7%)	5 (3.3%)	149
運動部	19 (14.3%)	47 (35.6%)	26 (19.6%)	25 (18.9%)	12 (9.0%)	3 (2.2%)	132
文化部	2 (11.7%)	7 (41.1%)	4 (23.5%)	1 (5.8%)	1 (5.8%)	2 (11.7%)	17

出所：「保護者調査結果」より作成

マイクロバス代や電車賃、送迎の負担もなく助かる。」

上記の3つは、当番や送迎について負担感を感じている人の記述である。このように負担を感じている保護者がいる。また、土日に当番や送迎が入ることが多いが、保護者が土日ともに空いているとは限らないため困っているという記述があった。また、送迎が負担となるために、子どもたちが自分でいける範囲での試合などを望んでいた。「お金」の負担よりも送迎の方が負担に感じているとの記述が複数みられた。送迎の負担は、保護者にとって大きな「負担」となっているようである。

「当番や送迎については、ずっと見ていたいのでは積極的に長時間います。」

「送迎の時間も子供との大切な時間だと思っています。」

上記の2つは、送迎や当番について負担感をあまり感じていない人の自由記述である。むしろ、個人的に練習や試合を見たいために、自ら送迎をする人や長時間見ている人がいることがわかった。試合や練習を見ることが好きで、積極的に送迎をし、ついていく保護者がいることがわかった。保護者の「楽しみ」の一つとして当番や送迎を捉えていた。試合を見たいために送迎の時間が子どもとの大切な時間として捉えている人もいることがわかった。

8. まとめ

2の(1)で述べたように、学校教育において「部活動」の位置づけは定まりきっていない。部活動は、学校教育の一部なのか、そうではないのかと議論はある。しかし、部活動を義務教育のなかでの重要な活動として、捉えることが重要であると考えられる。

学校によるが9割近くの生徒が部活動に所属している学校もある。自由記述にも部活動に加入し

ないと「いろいろと詮索が入り、嫌なことを言われているようだ」という記述があった。このように、学校が強制していなくても、他の生徒の多くが加入している状態で、加入できないということは入らない理由に注目が集まるようである。このような現状で、「部活動は自由参加である」との理由で、部活動の費用を保護者が負担するのが当然として捉えてはいけない。保護者の中には、「しんどい」と感じながらも「子どものため」として費用を負担している保護者がいる。

本調査では、子どもの部活動の選択理由に「お金があまり必要ではなさそうだったから」と答えた生徒はいなかった。しかし、「お金」について意識しており、28.2%の子どもが「お金が必要で保護者に申し訳ないと思う」と回答している。お金が必要で保護者に申し訳ないと思うと感じていることを、子どもの部活動の費用に対する「精神的な負担」と位置づけている。子どもたちも、部活動にかかる「お金」を気にしていることが明らかになった。

また、部活動選択においてももう一つ注目すべき点があった。それは、部活動に加入しなかった理由に「家で家事・洗濯・料理をしなくてはならないから」と答えた生徒が3人いたことである。「費用」とは、直接的には関係ないかもしれないが、放課後の時間を部活動に回すことが出来ず、家のことを手伝わなければならない子がいた。家庭状況等は詳しく把握できていないが、保護者が仕事などで忙しく不在のため、家で家事・洗濯・料理をしなくてはならず放課後の「自由な時間」が取れない子がいることがわかった。

本研究で明らかにした初期費用と継続費（年間費）をみても、費用は高額となっている。さらに、部活動の支出の特徴から、「ある月」にまとまってかかるため、さらに家計を苦しめる要因ともなっている。部活動の費用に対する「負担感」は、19.6%の保護者が負担感を感じていた。また、部活動によって費用の差があり、子どもがどの部活

動を選ぶかによって保護者の負担額が異なる。保護者に負担を強いるのではなく、子どもたちがお金の心配をせずに部活動を含めた学校に通えるように制度や環境を整えることが重要である。つまり、子どもが「学校に行けるかどうか」という話だけではなく、学校生活においての中身を充実させていくためには、クラブ活動費も含めた就学援助制度の充実が必要であると考ええる。本調査で明らかになった年間費は、クラブ活動（部活動）の援助額では賄いきれていない。「要保護者」でも部活動の費用（クラブ活動費）が賄いきれていない。さらに、「準要保護者」においても援助費目に含まれていない自治体が多い。このように、部活動の費用についての公的な援助が不十分である。

本研究で明らかになった保護者が負担に感じる費目の上位8費目の「昇段試験などの検定料」、「ユニフォーム・衣装」、「部で統一された物や服」、「道具」、「消耗品の道具」、「合宿・遠征費」、「医療費・体のケア費（接骨院など）」、「宴会費（謝恩会など）」から、まず支援すべきものがわかるのではないかな。保護者の中で「ユニフォーム・衣装」についての負担感が高かった。使用回数もそれほどないため、買う必要があるのかとの声も上がっていた。保護者の負担の軽減のために、「ユニフォーム・衣装」を学校の備品とするなどの対策が考えられる。公費で賄える部分の拡大が必要である。

また、部活動の費用は、保護者がかけようと思えばいくらでもかけられることを述べておきたい。“より強く”なるために自主的に「お金」をかけている保護者もいる。それが保護者の楽しみだったりもしているようである。このように、部活動の費用はかけようと思えば、際限なくかけられる。保護者も、どこで歯止めをかけるのが難しくなってきたのではないかと考えられる。本調査でも、250,000円と390,000円の高額支出者がいた。このような積極的に費用をかけていくことが、その保護者個人だけで収まっていれば問題はないのかもしれない。しかし、どうしても周

りの保護者にも影響を与えてしまう。

「一部の熱心な父兄にいちいち合わせることは、負担になる。」

上記の記述のように、保護者間でも、部活動に対する「温度差」はあるようである。一部の熱心な保護者に合わせるのが負担になるという記述があった。差し入れでもそうであったが、1人でも差し入れを行うとそれにあわせないといけないと感じる保護者がいる。チームスポーツであると、特に「周り」を巻き込んで「より強く」を目指し、費用をかけていく保護者がいることがわかった。「勝ちにいく」という風潮への疑問があり、そこにかかってくる費用（例えば、合宿や遠征費）が負担となっているようである。また、保護者は、自分の子供だけがもっていない状況ではかわいそうだという思いで個人の道具を購入するようである。このことが「負担感」にも繋がっているのではないかと推測している。

次は、保護者と部活動の関係である。保護者が中学校の部活動に参加、または補助する機会が増えてきている。

「自分たちの頃と比べると親が送迎だったり差し入れだったりと手をさしのべる場面が多くなったかなと……。」

このように、部活動では費用面の「経済的な負担」だけでなく、送迎などの「時間的な負担」においても保護者の協力が求められている。

保護者の記述の中に、部活動の支出に関して不満として頻繁に見られたのが部活動の費用がいくらかかるのかが不透明で困ったという意見であった。この課題について、対処が比較的すぐに可能なのではないかと考えている。

「入部のときに、部費の説明はあったがその他の登録料や検定料など急にいるのがあったので困っ

た。登録料や検定料など、あらかじめわかるお金は一覧表などを作って欲しい。」

「部活を1年生時選ぶときに必要金額は防具の値段のみ書かれていただけで、その他の遠征費、ウィンドブレーカー、道着や袴の予備のことなどまったく書かれていなくて、戸惑った。」

本調査で、急な出費（予想を超えた出費）が保護者の負担に感じる要素となっていることがわかった。急な出費（予想を超えた出費）をできるだけ無くすることが重要となる。「急」と感じさせないために、部活動の選択時、もしくは入部時に、部活動に必要な支出の一覧表を配り、保護者にある程度「時期」と「金額」を予め提示していくことが必要である。

本研究では、部活動に中学校における部活動において「何が」必要なのか、そして「いくら」必要なのかを示した。そして、子どもと保護者が部活動の費用に対して負担感を抱いていることを明らかにした。子どもたちが「お金」を気にせずに「好きな部活動で思いっきり楽しむ」ことのできるように就学援助制度などの公的な支援制度を整備していかななくてはならない。

文献

- 文部科学省生涯学習政策局政策課（1994）『子どもの学習費調査』文部科学省
- 文部科学省生涯学習政策局政策課（1996）『子どもの学習費調査』文部科学省
- 文部科学省生涯学習政策局政策課（1998）『子どもの学習費調査』文部科学省
- 文部科学省生涯学習政策局政策課（2000）『子どもの学習費調査』文部科学省
- 文部科学省生涯学習政策局政策課（2002）『子どもの学習費調査』文部科学省
- 文部科学省生涯学習政策局政策課（2004）『子どもの学習費調査』文部科学省
- 文部科学省生涯学習政策局政策課（2006）『子どもの学習費調査』文部科学省

文部科学省生涯学習政策局政策課（2008）『子どもの
学習費調査』文部科学省

文部科学省生涯学習政策局政策課（2010）『子どもの
学習費調査』文部科学省

文部科学省生涯学習政策局政策課（2012）『子どもの
学習費調査』文部科学省

文部科学省生涯学習政策局政策課（2014）『子どもの
学習費調査』文部科学省

文部科学省初等中等教育局児童生徒課（2017）『「平成
26年度就学援助制度実施状況等調査」等結果』文部
科学省

文部科学省体育局体育課（1997）『運動部活動の在り
方に関する調査研究報告』文部科学省

（北海道大学教育学部卒業）

